

恵庭市総合計画審議会（会議記録）

会議名	恵庭市総合計画審議会 専門部会（第6回地域振興部会）	
日時	平成17年8月19日（金）午前10時00分～	
会場	市役所3階 第3委員会室	
出席者	委員～松尾委員、井関委員、村本委員、岡田委員 市側～竹村企画財政部長、斉藤企画財政部次長、銅道総務部次長、 北岡経済部次長、竹村企画財政部長、菅原企画調整課長、 吉田主査、佐々木主査	
記録	氏名	企画財政部企画調整課 主事 山口 晃弘

1. 開会

2. 審議事項

(1) 基本計画検討案について

(2) その他

3. 閉会

○ 会議の概要

（松尾部会長）第6回の地域振興部会を始めます。今日は目標60の国際交流・姉妹都市交流を推進しますからになります。早速ですが、交流のやり方や目的も色々あって、例えば千歳などでは、中国との交流を全て民が主体でやっていて、経費も行政が出すこと無く運営しているところもあるようです。

（村本委員）やり方も目的も確かに色々ありますが、今恵庭の一番の問題は、子どもが交換留学するといったときに、こっちから行く場合はいいのだけれど、向こうから来る場合に恵庭の受入が整っていないのが実情です。だから、ニュージーランドに行く子どもの選考条件のなかに、向こうから来たときに受け入れる事を入れています。恵庭でも、受け入れる事が出来る家庭が増えれば、いろんな子どもたちに留学の可能性が広がると思います。本来であれば、そうなって欲しいと、そして、そういった制度というか、体制作りの中で、行政が支えてくれればと思います。それと、時期的な問題として、今までは、民が主導でやってきた時期でしたけど、もう、民がやって市がどうするという時期は過ぎたのではないかと。恐らく、次第に認知されてきて、市と民の協働と一緒に国際交流を進めていくという方向性を打出してくれればと思います。

（松尾部会長）確かに留学の場合恵庭の受け入れ態勢は弱いと思います。そのため特定の子ども

しか、行けないことになってしまっている。やはり、そういった環境整備を進めるべきだと思います。どこにターゲットを絞って交流するか、官民一体となって、考えて欲しいですね。

(村本委員) 民の進み具合の様子を見てから市がやるのではなく、もっと積極的に支える、官民一緒になって進めるといった姿勢が欲しいですね。

(竹村部長) ガイドラインの策定のなかで扱う事で考えています。今活動している団体も色々ありますし、そういった留学の受け入れ態勢作りなどに触れる事になると思います。また、文言の中で、行政も民も一緒になって進めるといった表現についてどこかで入れるよう検討します。

(松尾部会長) それでは次回までに基本方針の部分などに入れ込んでください。次、行財政運営についてですが、何かありますか。

(村本委員) 行政評価について教えて欲しいんですが。

(菅原課長) 政策に関連する事務・事業について、各課で評価したものを、次長職で編成される評価委員会において議論され、行政改革推進本部に報告されます。来年行うもの、現在行っているもの、終了したものについて、それぞれ事前、事中、事後の評価を行い、常に見直しをかけていこうとするものです。平成17年度から本実施をしております、今後その結果を公表する予定でいます。

(岡田委員) 総合運動自然公園のパブリックコメントに対する回答があったのですが、もう少し明確な回答をお願いしたかったかなと。というのも、総合運動自然公園の事前評価もやっているのではと思いますが、その結果はどうだったのでしょうか。その辺がでていないのかなと。

(井関委員) 評価するのはどの時期ですか。

(菅原課長) 9月以降に行いますが、予算の参考資料にもなって、財政的な面についても総合的に協議をおこないます。それから、事前評価については、前ははまだ試行的に行った行政評価でしかありません。それと確実な記憶ではないのですが、総合運動自然公園については確か、墓園も含めた全体的な地区の中での判断で、総合的に推進すべきとの結果だったと思います。

(岡田委員) この専門部会の中でも、構想の段階では無理に行政評価しなくてもという意見があったのですが、行政から出していただいたので、やっていくという強い意志の現れだと思うので、せっかくですから、しっかり行政評価を生かしていただきたいなと思います。

(松尾部会長) 岡田委員からの要望意見という事で、よろしくをお願いします。

(竹村部長) 行政評価の結果については、総合計画の様にパブリックコメントは伺いません。当然しっかりと公表させていただきますが、パブリックコメントは趣旨が違いますので。あと、今

は内部の評価ですので、今後外部の評価という事も視野に入れていかなければなりません。

(村本委員) 今回の総合計画の場合、市民と協働と言うことが基本ですので、そのためには市民に対して平等に、できるだけ行政と同じレベルで情報が得られるようにしていかなければいけないんじゃないかと思います。それは、民間の会社においても会社の状況を正確に社員に理解してもらわなくてはいけないのと同じことだと思います。

(井関委員) 評価委員会があるということですが、各担当と意見が違うといったことはありませんか。

(竹村部長) 予算の際の資料として、行政評価を使う部分があるのですが、確かに各部はやはり色々やりたいということで、相当要求をしてくるんですが、それはそれで、要求してもらって、実際の予算を組むときは上限がありますので、規模の縮小、経費の縮減、実施年数の延期などしながらやっていきます。

(松尾部会長) 財政健全化は難しいけれどやっていかなければならない。後ろ向きなことだから、市民から理解をもらうように、批判も受けていかなければならないと思います。だから、何故やらなければいけないのか、きちんと説明があった上で市民も汗をかいてくださいということであればいいと思う。解らないようにやってしまうと、疑問がわいて、不信を招きます。広域化の分野で、1点お願いがあるのですが、ごみの広域化ですが、今、頓挫しているようですが、磐尻の最終処分場も大変なようで、寿命が短くなっていると聞きました。せっかく水質の保全条例まであるのですから、磐尻の環境を守るという意味からごみの広域化については、本当に早急に、全力でお願いしたいと思います。

(岡田委員) 電子自治体についてですが、単に電子化するだけでいいというものではないと思うので、サービスのほうに重点を置いていただきたいと思います。

(銅道次長) 確かに役所の中だけで機械の整備をするだけでなく、市民の方々も含んで、みんなが利用できるようにしていくよう、考えています。

(村本委員) 5 年の計画だと思うんですけど、これだと言うものは、ないですかね。

(竹村部長) 子育てでは色々出てきていると思います、協働も重要ですし、でも、建物は特に大きなこれだと言うものは。市営住宅や、学校の耐震化・大規模改修、総合体育館の改修、などですね。

(松尾部会長) 全体として出てきたときに、各委員さんの意見がどう反映されているのかわからないと、どうなっているんだ、と言うことになってくる。建物ありきでなくていいんだけれども、5 年の中で数字はいいとして、こういうのがあるんだというのがあれば。

(竹村部長) 実際総合計画書が出来上がった時に、計画書と一緒に5ヵ年で何をやるかと言う事業計画と一緒に送ります。

(村本委員) 答申をする際に、今回の4期のポイントは何なの、といった時に、こういう気持ちでやると言えるものが欲しいですね。5ヵ年でモノを作る作らないではなく、精神的なものを築き上げる5年間であって欲しい、市民と協働でできる仕組みづくり、官・民が如何に同じ気持ちになれるかが大事なことだと思うので。

(松尾部会長) 皆さんの意見をたくさん聞いてきた中で、花のまちだよといったときに、今はどうなんだろう、今民間が作り上げたなかで、行政も一緒になってやっていく時に、色んな意見がこの地域振興部会では出ましたが、同じように他の部会でも色んな意見が出てくると思うのですが。

(村本委員) 前に一度簡単に各部会の経過を報告しましたが、最後に全体として、それぞれの部会をやってきた中でのイメージというか、思いを各部会長さんから聞きたいなと思うんですが。

(菅原課長) これまで専門部会を経てきて、強く印象に残っていること、ぜひともこれを打出して欲しいといった部分、専門部会の立場から全体を通して感じたこと、そういった各部会の意見をまとめて、部会長さんに確認をしていただいて、最後の審議会の冒頭で話していただくと言うことにしたいと思います。

(岡田委員) 今回事業が非常に多いんですが、5ヵ年の収支見通しの中でやっていけるという裏づけはあるのですか。

(竹村部長) ここに出している事業は、基本的に行うということです。当然5ヵ年の収支計画を見ながら、全部はできませんので、優先順位をつけて、事業費の縮減や、事業期間の延長など行いながら、予算立てしていきます。

(松尾部会長) 他無ければ、基本計画検討案の審議はこれで終了します。では、パブリックコメントについて、昨日まで出てきた分について、事務局より説明願います。

～事務局より説明～

(井関委員) 通常の手紙などがある場合には、どうなっているんでしょうか、どこか一括して受ける場所があるんでしょうか。

(竹村部長) 部署としては広報広聴課になります。ここで、全般的に受けて、回答するような形になっています。その他、メールでもいいですし、市長への手紙もあります。市長への手紙は全て市長が目を通して見ます。ただ、匿名の方には回答しようが無いので、苦慮しています。匿名の中にも無責任なものが多いのですが、出来れば回答して理解いただきたいというような真剣

な意見もありますので。

(村本委員) これからは、やる勇気とやめる勇気の両方が必要になってくるのではないかな。何でも全て行政で100%出来るわけではないので、協働のまちという意識が、官民一体となっていくんだという市民意識を啓蒙していく5年間になるのかな。

(松尾部会長) 今は、皆さん権利の主張が多い。社会の一員としての自分の位置付けを忘れていてのではないかなと。権利には当然、義務と責任が伴います。この辺の意識改革が難しいけど必要かなと。

いろんな意見をいただきましたが、この後、今後5年間の地域振興部会のテーマとしたいという部分や、先ほどの要望等を取りまとめた部分は、副部会長さんと整理させていただきたいと思います。それでは会議を終了いたします。ご苦労様でした。

会議終了